



@幸せな贈り物

## 悲劇のドミノ 根本を 変えるときです

**どうしてこんなことが...** 2008年9月、突然なタレントのアン・ジェファンの自殺。アン・ジェファンの奥さんと親しかった韓国トップスター俳優チェ・ジンシルは、彼の死の原因を提供したという悪いデマに苦しめられたあげく、2008年10月自殺で命を終え、大韓民国を衝撃に陥れました。そして、1年半後の2010年3月、姉の死で苦しんでいた弟チェ・ジンヨンが自殺で命を終えました。そして結局、2013年1月、チェ・ジンシルの前の夫チョ・ソンミンまで命を失いました。特にチョ・ソンミンは、2008年10月2日チェ・ジンシルと同じ享年40歳でバスルームのシャワーの取っ手に首をつると同じような方法で命を絶って、より一層、心を痛めるようになりました。

また、私たちには、2010年10月に夫婦が共に自殺を選んだ幸福伝道師チェ・ユンヒ夫婦の心痛むニュースも記憶に新しいでしょう。美しくない容貌のために、自らを「アザミ、苦菜、イヌヤクシソウ三種混合人間」と呼びながらも「ぶさいくなこと、貧しいこと、無知なことは罪ではない。罪はただ一つだ。熱心に生きない罪」とはっきりと話していた彼女も、2年余りの闘病生活の前では、それ以上、幸せでいることができなかつたようです。チェ氏は遺書に「点滴をいっぱいぶら下げて生きたくはなかつた。…700種類の痛みを苦しめられてみた方ならば私の心を少しは理解してくださるだろうと思った」と書きました。夫との心中に対しては「私は痛みがひどすぎて耐えることができず、夫はそのような私を一人で送ることができず、それで一緒に去ることになった」と説明しました。

花より美しいのが人生だと話します。しかし、運命と苦難の前では、人生の美しさはかげろうのように見なされるだけです。まるで連鎖衝突のような有名人の引き続く自殺、このように衝撃的な悲劇の連結の輪を、どのように切ることができるのでしょうか。

**ある日...**なぜ人々が願わない不幸にずっと陥るようになるのか分かりました。なぜ成功者が虚しさの中でやみの中をさまようのか分かりました。だれにも話せなくて、話しても理解することができない問題がどんなものなのか分かりました。

環境、条件、水準、知識と関係なく幸せになる道があるという事実を知りました。そして私ひとりのゆえ

に家庭と家系と子孫と全世界を生かせるという事実を知りました。  
 その解答を発見したので、それをお伝えしたくてペンをとりました。  
 私たちは生きています、望んではいないのに解決できない問題の中に置かれるようになる時が多くあります。  
 ところで、こういう問題は、はやく解決しなければ、より一層深刻なことにぶつかるとなります。  
 今、あなたに完全に解決できる道があるならば、どうしますか。  
 神様のみことばである聖書は、その解決策を明確に知らせています。  
 本来の人間は、神様のかたちに創造された神様のみことばである聖書は明らかにしています。  
 神様を知って礼拝できる霊的な存在として、神様と交わりながら生きるように創造されました。  
 そして、人間に全地を征服して治める権威をくださいました。  
 言い換えれば、人間は最高に幸せな霊的存在として創造されたということです。  
 魚が水の中に、鳥は空中で、木は土の中に根をおろして生きなければならないように、神様のかたちに創造された人間は、神様とともに生きるときに、まことの幸せを味わうようになります。  
 これが神様の創造原理です。

ところで、なぜ人間にこのように解決できない不幸な問題がたくさん生じるようになったのでしょうか。  
 人間を創造された神様と人間の間には約束がありました。ところが、人間はサタン（悪魔）の誘惑でこの約束を破る罪を犯してしまったのです。罪を犯した結果で、人間は神様を離れるようになりました。神様を離れた人間は、サタン（悪魔）の奴隷になってしまいました。

その結果、人間にはのろいと災いと苦しみと死が来るようになり、運命と生年月日による運勢に縛られるようになりました。最初の間であるアダムとエバが罪を犯した後に、すべての人間は原罪を持って生まれるようになり、私たちのたましいは、創造主の神様を知らないたましいになりました。これが、私たちの人間の根本問題です。神様を離れた人間は、自分も知らない間に、運命と運勢に縛られ、霊的問題、偶像崇拜の問題、精神問題、肉体問題、家庭問題、次世代問題、来世（地獄）の問題に陥って、受け継がれる苦しみの中に生きるようになりました。

多くの人々が、宗教、善行、哲学、科学等を通してこのような不幸の問題を解決して、神様に会おうと努力するのですが、人間自らの力ではこの問題を解決することはできません。

それで、神様は人間の問題を解決してくださるために、人間を救う計画を立ててくださいました。その方法は、救い主である「イエス・キリスト」を送ると約束されたことです。イエスは「救い主」（名前）、キリストは「油を注がれた者」（職分）という意味です。イエス・キリストは、神様を離れたすべての人間を神様に会うようにする唯一の道であるまことの預言者です。イエス・キリストは、十字架で私たちの罪の代わりをして死なれることによって、私たちのすべての罪を解決して、のろいと災いから解放してくださったまことの祭司です。イエス・キリストは、死から復活され、今でも人間を困らせて地獄に引っ張っていくサタン（悪魔）のすべての権威を完全に滅ぼされたまことの王です。それで、聖書はイエス様を「キリスト」だと語っています。言い換えれば、人間が絶対に解決できない根本問題を完全に解決してくださった方ということです。イエス様は、これらすべての救いの計画を十字架で成し遂げて、死から復活されました。今でも天の御座にすわって世の中を統治しておられます。

それなら、私はどのように私のすべての問題から解放されて、救いを得ることができるのでしょうか。  
 今、上の事実を信じて、イエス様をキリストとして私の心に受け入れれば良いのです。イエス様を信じて祈りて受け入れれば、神様の霊である聖霊様が私の中に入ってこられ、神様の子ともである身分を得るようになって、本来の人間が味わった祝福と権威を回復するようになります。

今、この時間にあなたはイエス・キリストを受け入れることによって、神様の子ともになり、あなたの過去、現在、未来のすべての問題を解決されることができます。真実な心で受け入れの祈りに従ってイエス・キリストをあなたの救い主として、主人として心の中にお迎えすれば良いのです。

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。  
 なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、  
 罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」ローマ 8:1~2

# 答えよりさらに重要な まことの祈り

アメリカの宗教学者C. エリスが言うのに「私たちが心配する問題をよく見てみれば、40 パーセントは発生することもない心配、30 パーセントはすでに過ぎ去ってしまったことに対する心配、12 パーセントは他人の視線に対する心配、8 パーセントは健康に対する心配、10 パーセントはそのほかのことに対する心配だ」と言いました。このような心配が積もって不安に捕われるようになれば、大部分の人々は答えを探して占いや迷信に依存したり、さまようようになります。2007年3月刊朝鮮の記事によれば、登録されたシャーマンと占い師だけで80万人と言われ、易術経済は数兆円台に達するという事です。そこにも答えがあると信じるので、今日もさまよう人々の歩みは続いています。すべての宗教は祈り文を持っていて、祈りをしますが、あるときには、獣・石・木・手で作った偶像・神をまつたほこらにお辞儀をして祈るのに答えがきます。いったいその理由は何でしょうか。

聖書は神様でない他の対象に祈るのに答えがくるのは、悪霊と交わることで、悪霊がもたらす答えだと明らかにしています。(1コリント10:20、マタイ24:11) はじめは答えになるようでも、結局は、失敗するようになります。悪霊の目的は結局、人間をほろぼすことだからです。

どのようにすれば、神様の答えを受けられるのでしょうか。まず、神様の祈りの答えを受けようとするなら、神様の子どもにならなければなりません。肉の両親も子どもに良いことを与えようとするように、神様は神様の子どもに答えてくださいます。イエス・キリストの御名で祈るとき、答えられる特権をくださいました。(ヨハネ16:24) それで、神様の子どもは不信仰を捨てて、神様のみことばに対する事実に基づいた信仰を持って最後まで祈れば答えを受け始めます。それでは祈るとき、どのようなことが行われるのでしょうか。祈るとき、聖霊が私たちの中におられるので、完全に私の責任を負ってくださる時間として、導いてくださる時間として聖霊で満たしていただき、聖霊の満たしを通して力を受けて天国の祝福を味わうようになります。また、私の現場に聖霊が働かれて、主の御使いを送って答えていただき、暗やみの権威は必ず砕かれるようになっています。言い換えれば、悪霊の勢力が追い出されて、みなさんの周囲にある偶像の勢力と、偶像ののろいが完全に崩れ、霊肉ともにいやされる働きが起きようになります。そうすれば、まさにその現場でイエスがキリストが確認され、神の国が臨むようになるのです。祈りは必ず答えられる科学です。神様は必ず答えておられるのですが、どのように答えられるのでしょうか。あるものは祈ったら即時、祈ったとおりに答えられます。また、あるものは答えられないこともあります。神様は悪霊ではないから、私たちに必要でないことは与えられません。どんな親が刃物をくれと言う幼い子どもに刃物を与えるでしょうか。しかし、私たちに向かった神様の計画はさらに完ぺきですから、より良いこと、より大きいことで必ず答えられます。神様の子どもにとって危機は「危険な機会」であるだけで、すべての心配は答えのための祈りの課題であるだけです。

## 神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来ていただき、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

## 神様の子ども 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかさされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

# キリスト教は ばかにされる宗教なのか



宗教はたいてい民族中心の信仰形態から生じる。国ごとに始祖誕生の話があって、神話が存在する。民族と国家宗教の形態を抜け出した世界宗教はキリスト教、仏教、イスラム教、ヒンズー教、儒教などだ。世界宗教の形態をそろえる時の必要要件は、経典の有無だ。その宗教を説明する本があるとき、その宗教は世界化された。

キリスト教という名前は、イエス・キリストの十字架の苦難と復活と昇天以後にできた初代教会の旺盛な宣教の結果でアンテオケでイエスを信じる人々がたくさん起きて、その信仰をばかにしようと思う意味で、キリスト人、すなわちキリスト教徒という用語を使ったところに由来する。キリスト人は、キリストに従う人々という意味でもあるが、キリストの小わっぱという皮肉が含まれているのだ。この福音がローマに入るようになったが、ローマの10人の皇帝がキリスト教徒を猛烈に迫害した。迫害した理由は、ローマ宗教とカエサル皇帝を崇拝しないという理由であり、キリスト教の聖餐式を誤解して人の血を飲むと言ったり、夜に集いを持つしかはなかったのだが、淫蕩な人々という、とんでもない罪名をつけて罪を着せた。そうして獣に食われて死ぬようにしたり、水牛を捕まえてその中に人を入れ、太陽光に置いたら革がかわくとき、骨が折れるようにしたりもした。また、ローマに入るアピア街道にクリスチャンを十字架にぶら下げてコールタールを埋めて火をつけ、夜に人間たいまつとして使うこともした。彼らは人間が行える極悪非道の苦しみの刑罰でキリスト教徒を迫害して信仰を奪おうとした。それでも、福音はひそかにローマに深く根をおろして、イエスはキリストという契約と、キリストは復活されたという単純なメッセージが生命力があるので、ローマが福音化された。

ヨーロッパの文明は、キリスト教の作品だが、福音の本質が弱まって、福音を回復する宗教改革が起きたが、福音を宗教化させたローマカトリック教会

が、キリスト教徒を  
プロテスタント

Protestant=抵抗する人々と言ったり、新しく起きた宗教だということで、新教あるいは改新教、または分裂していったと裂教とも言った。このように、歴史の中でキリスト教は迫害を受けたが、屈することなく教会の本質を失わないで今日に至っている。

最近になって、多様な宗教が起き、教会に対する要求が多くなった。現代の多角化された現場で、自分の声を出す人々がキリスト教をばかにした呼び方で、犬のような宗教という意味のことばを使って呼んでいる。それが福音の本質を味わうことができないう結果ならば、私たちが自省して態度を変えれば良いだろう。称賛される宗教としてのキリスト教をすべての人々が願っているであろう。しかし、もし意味が違って、キリスト教の本質に逆らうことばとして使われているなら、歴史の中で見てきたようにそのことばを使う人々は責任を免れない。音がして聞こえるのがことばだと言われるが、ことばは使い道による。人の話も成就するので、ことばに用心するのが一般人の姿勢だ。キリスト教は、そのように簡単に何人かが皮肉ったら崩れる宗教ではない。人のことばも意味があるのなら、神様のみことばはどれくらい正確に成就して答えられるかわからない。迫害する意味としてくだらない宗教と話す者の場合には正しいのかもしれないが、迫害を受けて育ってきたキリスト教には、そのことばがただ蜜のように聞こえる。未来がすぐ来るからだ。

チョン・ヒョングク (福音コラムニスト)